

(九・十月掲載)

金魚たちの声

五年 杉山 結衣

みんなには聞こえない
でも、ちゃんとしゃべってる金魚
私は聞いた
みんなには聞こえない
でも私には聞こえた
「なあにっ」っていう声
小さな声
次の日の朝、起きたら
金魚が、パクパク
でもみんなは分からない
でも私には聞こえた
「おなかすいた」っていう声
私には聞こえるのに
みんなには聞こえない
みんなにも金魚の音が
聞こえればいいのに

暑い登校中

六年 吉原 希

暑い、暑過ぎる
汗がぼたぼたたれてくる
学校までもう少しなのに
足が進まない
水を飲んでみる
でも進まない
もう一口飲んでみる
やっと進んだ
もう少しだった学校が
遠く感じる
やっと学校に着いた
けど暑い
すーっと暑い
あゝ暑い

お母さん

四年 淡路 啓介

お母さんはぎょうざのかわ
ほくはぎょうざの中身
お母さんは
ほくをつつみこんでくれる
ふっくらした手で
つつみこむ
ふっくらした中で
ほくは目をつぶる
ほくは
ぎょうざがだいすきだ



せみ

四年 齊藤 尊

帰り道 時間がとまったせみがいた
せみは どうしてなくのかな
ミンミンミンミン
暑い暑いってないてるのかな
ミンミンミンミン
かなしいからないてるのかな
ミンミンミンミン
ここにいるよってないてるのかな
ミンミンミンミン
もっといきたいよーってないてるのかな
ミンミンミンミン
うまれてきてよかったって
よろこんでいるのかな
ほくはまだとまらない
せみの分までがんばるぞ

最後の夏

六年 中村 幸祐

八月十四日若獅子杯決勝
ぼくたち六年の最終戦
勝っても負けても
笑顔で終わろうと決めていた

九人の仲間と戦ってきた
時にライバル時同志
たかさんの練習をして
大きな壁も乗り越えてきた
最高の仲間
決勝でのスタンド
ぼくらの気持ちを盛り上げてくれた
ベンチの後輩たち
優勝を祈ってくれた
願いは届かなかった
首にかけられた銀メダル
涙でにじんだグラウンド
全ての人の感謝の一礼をした

とけいさん

四年 竹ぶちらいむ

とけいさん
いつもはりをうごかして
うごかすことは
たのしい？
ちよっとは休んでいいんだよ
とけいさんは
しごとをいっぱいするんだね
そんなにしごとして
つかれない
ちよっとはやすんでいいんだけど
そしたらみんながこまっちゃう
とけいとけいはやすみたい
とけいさんはしごとをがんばるから
とけいさんもがんばるか
とけいさんありがとう